

# Conference Report

学界情報 国際会議レポート

The 36th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON2010)  
November 7 - 10, 2010, Glendale, USA

IECON は IEEE Industrial Electronics Society が主催する旗艦会議である。2010 年は第 36 回を数え、11 月 7 日から 4 日間 (7 日はチュートリアル), 米国アリゾナ州の州都フェニックスから約 10 マイル西に位置するグレンデールで開催された。なお、本会議と並行して The 4th IEEE International Conference on E-Learning in Industrial Electronics(ICELIE2010) および IES Industry Forum 2010 が開催された。

IECON2010 には、約 50 カ国から 850 件超の論文が投稿され、そのうち 539 件が採択された(採択率 64%)。発表はすべてオーラルセッションによるもので、ポスターセッションは設定されていない。初日に開催された 8 件のチュートリアルから始まり、パワーエレクトロニクス、モーションコントロールや信号処理など広範囲に渡る全 112 セッションが 10 会場に配置され、活発な討議が行われた。どの会場もキャパシティに余裕はあったが、Industry Forum の EV 関連セッションなど、中には立ち見の出る部屋もあった。また、各日の昼食時には下記のプレナリーセッションが 1 件ずつ配られ、簡単なランチ(サンドイッチ)を口にしながらフランクな雰囲気の中で講演が行われた。

- "Manufacturing complexities with advanced silicon technologies", Mr. Joshua M. Walden, Intel Corporation, USA
- "Advances of future vehicles and social adaptation", Prof. Tadao Saito, Toyota-InfoTechnology Center, JPN
- "FREEDM System - The Energy Internet", Dr. Alex Huang, North Carolina State University/NSF FREEDM Systems Center, USA

プレナリーセッション、チュートリアルにおいても EV/PHEV をはじめとする次世代自動車関連技術やそのインフラストラクチャー、再生可能エネルギー利用技術やスマートグリッドに関連するテーマが取り上げられており、他の国際会議と同様、エネルギー・環境問題への世界的な注目度の高さを示している。また、表 1 に示す様に日本から



図 1 プレナリーセッションの様子 (齋藤忠夫氏)

表 1 筆頭著者国別論文数

USA	79	Italy	21
Japan	79	Brazil	18
Spain	37	Canada	17
China	35	Australia	14
France	30	India	14
Taiwan	26	S.Korea	13
Germany	21	U.K.	13

49 Countries

Total 539 papers

の投稿数は主催国である米国と肩を並べており、この分野における日本のアクティビティの高さを物語るとともに、日本の産業界や一人一人の技術者が果たすべき役割は重いと感じずにはいられなかった。

今年の IECON にはオープニングセレモニーが無く、いきなりテクニカルセッションから始まった。また Authors' Breakfast もセッション毎にテーブルが決まっておらず、事前に顔合わせをすることができなかった。このあたりの大雑把さは、ある意味米国らしいところではある。しかしながら、Authors' Breakfast に関しては不満を口にしている参加者が少なくなかった。また三日目の夜に開催されたバンケットにて、筆者はたまたま The University of Tennessee の Prof. BOSE 一行と同席することになった。パワエレ昔話や以前滞在した日本の温泉宿話等、興味深い話を聞かせていただき、非常に楽しいひとときを過ごすことができた。これもまた国際会議の醍醐味の一つである。

来年の IECON は 2011 年 11 月 7 日から 10 日にかけてメルボルン(オーストラリア)で開催される。投稿締め切りは 2011 年 4 月 15 日である。



図 2 バンケットの様子(会議の規模が窺える)

平木 英治 (山口大学)  
(平成 22 年 12 月 21 日受付)